

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を視野に入れたケアを実践しているかを、定期的に職員間で共有している。ホール内に理念を掲示し、実践に結び付けている。	法人理念と「笑顔とその人らしさを大切に、地域で安心して生活できるよう支援する」というホームの理念がある。玄関に法人とグループホームの2つの理念を掲げ、1週間に1回、理念を唱和し、確認している。利用者や家族へは契約時に理念に沿ったケアについて説明している。リビングにも理念が掲示してあり常にケアを振り返ることができる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の新年会への参加、運営推進会議の開催、行事でのボランティアの受け入れ、散歩に出た際は、地域住民との挨拶、会話等日常的に交流している。	区長や民生委員の方々と運営推進会議を通じて親しくなり、地区の一員として少しずつ存在感もできて来ていると実感しており、徐々に地域の方と交流が出来るようになってきている。高校生の職場体験が12月に行われる予定で、職員にとっても初めての経験で緊張しつつも張り切っているという。耳の不自由な利用者が多いので見て楽しめる踊りなどのボランティアが多いが、ハーモニカのボランティアも来訪している。キノコや野菜の差し入れも沢山いただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事等で認知症の人への理解、関わり方や支援方法を地域の方に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、市の担当者、区長、民生委員の方に出席して頂き、利用者やサービスの実際評価への取り組み状況について報告、意見交換、話し合いをし質の向上に活かしている。	家族、区長、組総代、民生委員、市職員で構成され、2ヶ月に1回開催されている。避難訓練が実施される月には消防署員や消防団の参加もある。利用状況、運営状況の報告等をし、話し合いが行われている。介護保険が改定された時は内容の説明等もしている。区長からは「なんでも声を掛けて」と嬉しい言葉を頂いている。委員専用の新聞を作成し配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と連絡を必要に応じてとり、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えながら、情報交換、協力関係を築くように取り組んでいる。	市主催のケアマネージャー会議に出席し研修を受けたり情報交換している。介護保険更新申請は家族からの依頼により代行することもあるが、多くの家族が申請手続きをしており、調査は同席する家族とともに職員が利用者の状態を正しく伝えている。利用者との会話を主体とした介護相談員2名の訪問も定期的にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしないケアを正しく理解しており、利用者の状況を常に観察し安全を確保しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人には身体拘束委員会があり北信地区代表者が本部の会議に参加し地区の各施設へ内容を伝えたり、法人の中野地区ケア会議でも身体拘束の研修があり職員へ伝達している。夕方になると帰宅願望が強くなる利用者については利用者が納得するまで職員と一緒に歩くなどの対応をしている。転落しやすい方については床に布団を敷いたり、ベッドの位置を工夫するなどの対応をしている。	

グループホームこうしゃ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待について職員間で話し合ったり、研修をし、職員全員が虐待について理解をしている。事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用されている方はいないが、権利擁護に関する研修会に参加し、研修報告を行う事で、今後入居の方で必要であれば導入、活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の締結、解約、改定等の際は利用者や家族に十分な説明を行い、契約内容、利用料金、起こりうるリスクについて理解、納得して頂き、同意の上署名、捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見、要望を言って頂ける様、意見箱を設け、話しやすい雰囲気作り、関係性を大切にし、定期的に介護相談員の訪問もあり、利用者が気軽に外部の方と話しが出来る様に配慮している。	通院の付き添いは原則家族としているので家族の訪問は比較的多い。家族と職員の話す機会も多く、来訪時には利用者の生活を知らせている。「こうしゃ敬老園グループホーム新聞」と利用者の担当職員の手紙を添えて毎月家族へ送っている。春5月と秋9月に家族会を開催し、秋には敬老会を兼ねている。家族同士、家族と職員の話から意見をいただき、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案をきく機会を設けている。ケア会議など意見や提案を話しやすい環境作りにも努め、利用者ノート、業務連絡ノートを用意し記入出来る様にしている。利用者の関わりの中で気づきや変更点など積極的に反映させている。	毎月開かれる会議は主に利用者のケアについてと業務連絡となっている。会議以外でも必要に応じてすぐに話し合いの場を設けている。ノート活用で情報の共有が行われ、職員同士の関係も良好であり、新人職員も利用者へのケアに不安なく対応が出来る。来年度より本格的に実施される人事考課制度に向けての前段階ではあるが管理者と職員の面接も行われ、意見や提案などでも出来るようになっていく。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、個々の悩み等把握するように努めている。勤務状況、労働時間、給与水準、やりがいなど、向上心をもって働けるよう、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修システムにより、全職員が研修が受けられる様に機会を設けている。研修に参加した職員は、ケア会議で報告し、全職員で共有している。		

グループホームこうしゃ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三カ月に一回市内のGHとの連絡会に参加し、意見交換、勉強会を行い同業者との連携、交流ができればレベルアップ、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人が困っている事、不安、要望に耳を傾け、本人が安心して過ごせるよう、関係作り環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族が困っている事、不安な事、要望等に耳を傾け安心して頂けるよう関係作り、信頼作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望、想いを受けとめ必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応、提案に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にし、出来る事への支援に努め、大切にし、本人と暮らしを共にする者同士、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族宛の手紙を送付し、家族と連絡を取り、本人と家族の絆を大切にしながら、本人を共に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、知人等本人が大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、面会の際、家族との外出の際等関係継続の支援に努めている。	自宅の近所の方の訪問等がある。お墓参りを家族と共に行う方や行事に関係なく時々自宅へ泊りで帰る方もいる。独居より入居した方は通院の帰りに様子を見ながら自宅へ帰り、ついでに衣類等を持ち帰ることもある。携帯電話を持ち、好きな時間に友人や馴染みの店と連絡を取っている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握、観察し一人一人が孤立しないよう環境に配慮し、利用者同士が関わり合い、助け合い、支え合えるような支援に努めている。		

グループホームこうしゃ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により、退去後も移転先の関係者への情報提供、これまでの関係性を大切にしながら、家族とも密に連絡をとり、その後のフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや暮らし方の希望を傾聴、言葉、表情などからその人の意思、意向の把握に努め、困難な場合は、本人本位に検討している。	多くの利用者は訪問美容を利用して整容しているが「他の人と同じ髪型はイヤ」と言う方は希望で外の美容室を利用している。誕生会の時、当人に何が食べたいかを聞き好きなものを提供しており、「イカの天ぷらが食べたい」との希望に沿い、職員が作ったところ満足されたケースもあったという。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等情報収集をし、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活を観察し、日々の関わりの中で利用者の心身状態、能力等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らす為に、本人、家族の要望、意向を確認し、定期的カンファレンスを実施、チームで変化する状態に対応出来るようプランの見直しを行っている。	利用者の担当制を取っている。利用者や家族から要望を聞き、担当職員とケアマネージャーが話し合いをしている。サービス計画書(2)がすぐに見られる状態にあり、毎日評価し、ケース記録に書き込むことで全職員の対応が同じものとなり、利用者の不安や困惑に繋がらないようにしている。短期目標、長期目標は定期的に見直しがされている。計画は家族へも説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきをケース記録に記入し、又、利用者連絡ノートを活用し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせ、個別性を大切に、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

グループホームこうしゃ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアの来訪、地域の祭り等地域資源を把握し、利用者が安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人、家族の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医への受診への支援、適切な医療が受けられるよう情報提供し連携を図っている。	大半の方は利用以前からのかかりつけ医を継続している。歯科は往診で見えていただける協力医を利用する方が多い。受診は家族の付き添いをお願いし、ホームで医師宛の情報提供書を作成し持参していただいている。週1回の訪問看護があり相談やアドバイスを受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職や訪問看護師への情報、気づきを伝え相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や入院後の利用者の状況等病院関係者と情報交換や相談に努めている。入院中は訪問し、退院後の方向性等早期に退院できるよう、病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についての説明、支援については家族の意向を確認しながら、家族等と話し合いを行い、事業所で出来る事を説明しながら、主治医との対応方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる。	契約時に「重度化対応及び終末期ケア対応指針書」で説明をしている。開設から初めての看取りが今年度4月に行われた。終末期に入り利用者のかかりつけ医より看取り対応についての話があり、家族もホームでの看取りを希望された。職員にも不安はあったが、医師の24時間対応もあり看取ることが出来たという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを用意し、急変時、速やかに対応出来るよう応急手当、初期対応の訓練を定期的に行っている。救急蘇生法の研修に参加し実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。そのうち1回は地域の方に参加して頂き合同で防災訓練をしている。災害発生に備え、食材、飲料水等の備品を準備している。	年2回訓練を行っている。地区と防災協定が結ばれているので有事には協力が得られることになっている。10月の訓練は夜間想定で、同じ敷地内のデイサービスと合同で行った。消火訓練、通報訓練、避難訓練が行われ、地域の方の参加もあり消防署からは評価や提案をいただき次回に活かしていく意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの気持ちや人格を尊重し、プライドやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。、	法人で年1回研修があり(今年は11月)法人北信地区の委員が受講し、受講者が職員に伝達研修している。排泄や入浴時に異性介助を嫌がっていた利用者も職員との関係作りが出来ると拒否がなくなっていくという。利用者への呼びかけは敬意を込めて「名前」や「苗字」にさんを付けてお呼びしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、想いや希望をきく中で信頼関係を築き、本人が自己決定しやすい声掛けや雰囲気作り環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせ、その日をどのように過ごしたいか、体調や気持ちに配慮しながら、希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師に施設に来て頂き、本人の希望に添ったその人らしい、身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会では、食べたいものを取り入れ、又、旬の食材を取り入れ、食事が楽しみなものになるよう、利用者と職員と一緒に皮むきや、味見をしながら準備や食事、片づけをしている。	半数が常食で残りの方は刻みやミキサーなど食べやすい形態で対応している。誕生会は利用者の食べたい物や美味しいケーキでお祝いしている。異動でホームに来た男性職員も学生時代の経験に加え利用者の方々から教わりながら食事作りをしており、利用者からは「マア、マア」と評価していただいているという。道路に面したホーム南側の敷地内でお茶や軽食を頂きながら気分転換をすることもある。手作りおやつの日があり、ホットプレートでホットケーキやシラセンべいを焼き楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分、おやつ摂取量は毎食後個別日課表に記録をし、一日の水分量を把握し、1人ひとりの状態にあった栄養摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は、口腔ケアの重要性を理解し、毎食後の口腔ケアは個々の能力に合わせ、声掛け見守り、介助を行っている。義歯は週1回、定期的に洗浄している。		

グループホームこうしゃ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおムツの使用を減らし、1人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自立の方や一部介助の方、全介助の方と様々であるが可能な限りトイレでの排泄を支援している。一人ひとりに合った声掛けと介護用品の選択に心掛けている。ポータブル使用者もいるが夜間は職員が声掛けしながら確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の過ごし方や軽体操、運動を促し個々に応じた予防に取り組んでいる。医師や訪問看護師と連携をとり、状況に応じた排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の体調や希望により、柔軟に対応する事で入浴をゆっくり、楽しんで頂ける様支援をしている。	週2回の入浴を予定している。全員が介助を必要とし、立位がとれない方はシャワー浴となっている。浴室全体が床暖房で暖かい。利用者に皮膚の敏感な方がいるので入浴剤は使用しないが菖蒲湯は行っている。1日3人位の利用者が時間をかけゆっくりと入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの希望、又は生活習慣に合わせ、休息できる環境作りに努めている。空調や掛物調整等安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりが処方された薬の目的や副作用、用量について理解し、確実に内服出来るよう、又処方の内容に変更があった場合は、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりが培ってきた能力や習慣が発揮できるよう、支援している。又張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、天気の良い日は植物など自然とふれあい、気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や1人ひとりの体調に配慮しながら、施設外へ散歩に出掛け、気分転換できるよう、本人の希望を把握し、家族等に協力頂きながら出掛けられるよう支援している。	花見、バラの見学、紅葉狩り等で外出している。出先でソフトクリームやお茶を頂き帰ってくることもある。ホームの前の道路を外気浴を兼ねて散歩している。同じ敷地内のデイサービス主催の納涼祭に出かけ地域の方とも交流している。	

グループホームこうしゃ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の思いを理解し、家族の了承を得る事により、少額の現金を所持し、希望に応じてお金を使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所有している利用者があり、本人管理のもと通話している。家族や知人に手紙を出す利用者もあり、職員が宛名を確認し投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が不快や混乱を招かないよう、整理整頓、清掃、換気を行っている。利用者と職員と一緒に作成した季節を感じられる、作品等を飾る事で、心地よく過ごして頂ける様配慮している。	12月の訪問調査であったので室内にはクリスマスツリーが置かれ、壁にはトナカイとサンタの切り絵が飾られていた。各居室のドアにも折り紙で作られたリースが飾られていた。南に面した窓はカーテンが開け放たれ暖かい太陽の光が入っていた。利用者もリビングや居室など思い思いの場所で過ごしていた。リビングにある畳敷きの小上がりは地区の花火大会の時には特等席になるという。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が、一緒に洗濯物をたたんだり、手作業が出来る環境作り、互いに楽しく会話や食事が楽しく行えるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたテーブル、椅子、茶碗、箸等使い慣れたものや好みの物を使用し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室にはベッド、洗面台、クローゼット、飾り棚が備え付けられている。自宅からの家具などの持ち込みは比較的少ないが、制作中の編み物と毛糸がテーブルの上に置かれた居室も見られた。写真や時計、カレンダーで日々の移り変わりが分かるようにしている利用者もいる。クローゼットに色々なものが収納できるので車いすを使用する利用者にとって動きやすい空間が確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内に於いては、安全、安心に生活が送れるよう、1人ひとりにあった家具やベッドの配置となっている。自立した生活が送れるよう個人の想いや希望も取り入れられている。		